

魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画

平成25年2月

名古屋市教育委員会

目 次

はじめに	1
1 「推進基本計画」の策定まで	2
(1) 市立高校の沿革	2
(2) 市立高校の特色と最近の教育改革の流れ	3
(3) 「推進基本計画」策定の経緯	5
2 「推進基本計画」について	6
(1) 名古屋市立高等学校が目指すもの	6
(2) 「推進基本計画」を進める視点	6
(3) 「推進基本計画」の内容	7
ア 特色ある普通科高校	7
イ 専門学科高校の充実	9
ウ 定時制教育の再編成	12
エ より魅力ある市立高校づくりに向けて	12
3 「推進基本計画」のスケジュール	14
<参考>		
1 魅力ある高等学校づくり推進研究協議会	15
2 教育シンポジウム	17

はじめに

名古屋市立高等学校は、明治17年の名古屋商業学校設立以来、名古屋市域の要請に応える人材や中京工業地帯の産業の発展を支える人材など、名古屋の発展を支え、市民生活の向上に貢献しうる、有為な人材を育成するという役割を担ってきました。

現在、名古屋市内にある国公立高等学校36校の内、市立高等学校は14校を占め、毎年由市立中学校卒業者の進路選択肢として、大きな役割を果たしています。

科学技術の急速な発展、産業構造の変化、国際化、情報化、少子高齢化など、学校を取り巻く社会の状況は大きく変化し、高等学校に通う生徒の生活実態や学習環境も変容し、生徒の興味や関心、能力や適性、進路の希望もますます多様化してきています。そのため、従来の学校や学科に対する考え方では、社会のニーズや多様な生徒に十分対応できていない側面もあり、生徒一人一人の個性や能力の伸長を図るためにも高等学校教育の改革が求められています。

そうした中、名古屋市立高等学校では、平成14年度に「今後の市立高等学校の在り方研究会議」を開催し、そのまとめを受けて、平成17年度には、①西陵商業高等学校を総合学科高校に改編、②向陽高等学校夜間定時制課程を募集停止、中央高等学校夜間定時制課程商業科の定員を80人から40人へ、中央高等学校昼間定時制課程の定員を80人から160人へと拡充、という改革を行いました。そして、生徒、保護者、市民にとって、より一層魅力ある市立高等学校づくりを目指して、平成23年度に「魅力ある高等学校づくり推進研究協議会」を立ち上げ、7月から2月まで、計6回の協議会を開催し、平成24年3月には協議会の「まとめ」が教育委員会に提出されました。その後、8月には「教育シンポジウム」を開催し、これからの魅力ある高等学校づくりの方向性について、市民の皆様からご意見、ご提案をいただきました。これらの議論もふまえ、平成25年から5カ年にわたる「魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画」を策定しました。

今後はこれをガイドラインとして、新しい時代に対応した、より魅力ある市立高等学校づくりを目指してまいります。

平成25年2月

名古屋市教育委員会

1 「推進基本計画」の策定まで

(1) 名古屋市立高等学校の沿革

○市立高校は、明治17年(1884年)の名古屋商業学校(現名古屋商業高校)をはじめとして、大正6年の名古屋市立工芸学校(現工芸高等学校)、大正8年の名古屋市立第二商業学校(現西陵高等学校)など、戦前は実学を中心とする学校が設立されてきました。戦後の新制高等学校の発足以後は、地域住民の要請等により、北高等学校、緑高等学校などの普通科高校が設置されてきました。

○市立高校は、これまで、名古屋市の産業の発展を支え、市民生活の向上に貢献できる人材の育成とともに、市民の要請に応える教育機関としての役割を担ってきました。

課程	現高等学校名	現大学科	創立年	備考(創立時の校名等)
全 日 制	名古屋商業	商業	明治17年	名古屋商業学校
	菊里	普通・音楽	明治29年	名古屋高等女学校
	向陽	普通	大正元年	名古屋市立第二高等女学校
	工芸	工業	大正6年	名古屋市立工芸学校
	西陵	総合	大正8年	名古屋市立第二商業学校
	桜台	普通・ファッション文化	大正13年	名古屋市立第三商業学校
	工業	工業	昭和11年	名古屋市立機械専修学校
	北	普通	昭和38年	
	若宮商業	商業	昭和38年	
	緑	普通	昭和44年	
	富田	普通	昭和49年	
	山田	普通	昭和53年	
	名東	普通・国際英語	昭和59年	
定 時 制	中央(夜間)	普通・商業	昭和16年	名古屋市立前津商業学校
	工業	工業	昭和23年	
	中央(昼間)	普通	平成11年	

(2) 名古屋市立高等学校の特色と教育改革の流れ

ア 市立高校の特色

- 普通科、商業科、工業科、総合学科、定時制と様々な課程・学科を設置
- 普通科では授業の単位時間の工夫や、少人数・習熟度別授業によって、確かな学力が身につくような学習指導を実施
- 商業科、工業科では資格取得や各種コンテスト等への出場などに向けてきめ細かな指導を実施
- 定時制課程では、個々の特性をいかしながら、進路を自分の力で切り拓いていくような指導を実施
- 普通科、専門学科とも各校2名ずつの代表をそれぞれ、オーストラリア、シンガポール・マレーシアへ派遣する市立高校生海外派遣事業を実施

その他、以下のように各校毎に特色ある教育活動を行っています。

学校名	学科・コース	特色ある活動
菊里	文・理選択 音楽科併置	・65分5限授業
向陽	文・理選択	・65分5限授業 ・SSH(H18～H24) ・33単位の教育課程(H24～)
桜台	ファッション文化科併置 文・理選択	・46分7限授業 ・ファッションショー
北	文・理選択	・46分7限授業(H24～) ・授業後の特別講座
緑	全日 文・理選択	・55分6限授業(H24～) ・習熟度別(数・英) ・土曜講座 ・1年生英語の多聴多読 ・朝の新聞記事切り抜きの読み取り
富田	普通 理数・人文・英語・特別コース	・46分7限授業(H24～) ・習熟度別(数・英)
山田	文・理・一般コース(2年) 文I・文II・理I・理IIコース(3年)	・46分7限授業 ・朝の読書 ・新川の水質検査(総合的学習) ・AED実習(総合的学習)
名東	国際英語科 併置 文・理選択	・46分7限授業 ・SELHi(H15～17) ・図書館開放 ・夏季語学研修(豪州ブリスベン) ・国際英語科海外修学旅行(韓国) ・海外からの留学生、修学旅行の受入

西陵	全日 総合	系列 アカデミー・健康スポーツ 介護福祉・国際ビジネス ビジネスマネジメント・ 情報メディア	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流、地域との連携 ・夏期休業中の就業体験 ・高大連携（東海学園大・日本福祉大学） ・資格取得
名古屋 商業	全日 商業	商業科(会計・流通経済 ・OAビジネスコース) 情報処理科 国際経済科	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校連携(ロサンゼルスガーデイク高校) ・T会議による合同授業(チェリーブロック工科高校) ・高大連携(愛工大・愛知大) ・夏期休業中の就業体験・資格取得
若宮 商業	全日 商業	総合ビジネス科 (ビジネス・ インテリジェントデザイン・ 環境ビジネスコース) 情報ビジネス 会計ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> ・SPP(環境学習)への取り組み ・就業体験 ・高大連携 (愛工大・名商大等) ・資格取得
工業	全日 工業	機械科 電子機械科 自動車科 電気科 情報技術科 環境技術科	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行機制作 ・技術ボランティア ・総合選択制、コース制導入 ・就業体験・資格取得
工芸		電子機械科 情報科 建築システム科 都市システム科 インテリア科 グラフィックアーツ科 デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> ・類型選択による大幅な選択制 ・就業体験・資格取得 ・総合的な学習の時間「自己と社会」
中央	夜間定時制	普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の実施 ・資格取得
	夜間定時制	商業科	<ul style="list-style-type: none"> ・三年修了に対応する教育課程
	昼間定時制	普通科(単位制)	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制(無学年制、無学級制) ・自由選択制、少人数指導 ・学力に応じた多様な講座設定 ・三年修了に対応する教育課程
工業	夜間定時制	工業技術科	<ul style="list-style-type: none"> ・三年修了に対応する教育課程 ・3・4年次専門学科選択制 ・基礎学力指導・少人数教育

イ 最近の市立高校教育改革の流れ

- 平成11年 無学年制・単位制の昼間定時制課程を中央高等学校に併設
- 平成15年 若宮商業高等学校の小学科名を変更
(商業科→総合ビジネス、情報処理科→情報ビジネス、会計→会計ビジネス)
- 平成17年 西陵商業高等学校を総合学科に改編
向陽高等学校定時制課程を募集停止
中央高等学校夜間定時制課程商業科の募集人員を80人から40人へ
中央高等学校昼間定時制課程の募集人員を80人から160人へ変更し
2部制とする。
- 平成22年 名東高等学校英語科を国際英語科へ学科名変更

(3) 「推進基本計画」策定の経緯

- 平成23年3月 名古屋市教育振興基本計画に『特色ある市立高校づくり』が以下の内容で掲載

生徒、保護者にとってより魅力があり特色ある市立高校について、各学科の充実・発展、中高・高大連携の推進、地域社会への貢献などの検討をすすめます

- 平成23年7月 名古屋市教育振興基本計画の基本理念を踏まえ、市立高校の整備状況や現状を分析・検証し、諸課題について整理・検討するため、以下の研究課題を掲げた「魅力ある高等学校づくり推進研究協議会」を設置

<研究課題1>

社会の変化に対応した市立高等学校の教育の在り方について

<研究課題2>

生徒、保護者のニーズに対応した魅力ある市立高等学校の在り方について

<研究課題1>について専門部会を設置し、「野外教育活動」について協議

- 平成24年3月 「魅力ある高等学校づくり推進研究協議会」より「まとめ」を受理
- 平成24年8月 市民対象の教育シンポジウムを開催し、魅力ある市立高等学校づくりへの方向性について、参加者からの意見・提案を聴取
- 平成24年11月 「魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画(案)」を策定

2 「推進基本計画」について

(1) 名古屋市立高等学校が目指すもの

- 名古屋市立高校は、社会の変化や生徒・保護者のニーズに対応しながら、次に掲げる資質をもった生徒を育成していきます。
 - ①人生をたくましく生きる力を備える。
 - ②未来への夢を抱き、学び成長し続ける。
 - ③社会性を備え、他人を思いやり、協力・協調する。
 - ④豊かな感性と創造力を備える。
- 名古屋市立高校は、社会の発展に努め、地域社会に貢献できる人材を育成していきます。
- 名古屋市立高校に、義務教育と高等教育や産業界とを結ぶ役割をもたせ、学校間連携や校種を超えた連携による教育活動を推進し、名古屋市の教育活動を活性化させます。

(2) 「推進基本計画」を進める視点

- 今までの各市立高校の取り組みを発展させ、目指す姿を明確にし、より一層の魅力と特色づくりを推進していきます。
特に、

- ①特色ある普通科高校づくり
- ②専門学科高校の充実
- ③学校間連携・高大連携の拡充

に取り組むことで、中学生、保護者の多様なニーズに応えるようにしていきます。

- 学校のさまざまな資源の活用を図るとともに、地域や関係諸機関などとの連携を積極的に進め、学校外の力も活かした教育活動の在り方を追求していきます。
- 同窓会からの協力等を「名古屋市教育基金」に組み入れ、それを活用して効率的な計画の推進を図ります。

(3) 「推進基本計画」の内容

ア 特色ある普通科高校

名古屋市立の普通科高校が目指すもの



『世界に通用するグローバル人材の育成』

(ア) 外国語教育の充実

世界に通用するグローバル人材の育成を図るためには、各校とも外国語教育を充実させることが望まれます。そこで、以下の取り組みを行っていきます。【平成25年度～】

- 学習成果の指標として、TOEFLやTOEICの受験を奨励すること。
- 生徒の海外留学や語学研修を奨励するとともに、学校としても語学合宿や海外語学研修、海外修学旅行の実施について検討すること。
- 英語の授業以外でも、日本語ではなく英語で授業を行うこと。
- 以上の取り組みを継続する中で、国際バカロレアのディプロマ・プログラムへの取り組みを検討すること。

(イ) 教員の専門性、地域の教材を活かした特色ある教科指導の実践

- a 各校毎に教員の専門性や地域の教材を活用した特色ある教科指導を行うことで、生徒の興味・関心を喚起し、確かな学力の定着・伸長につなげていきます。例えば、以下のようなことが考えられます。

【平成25年度～】

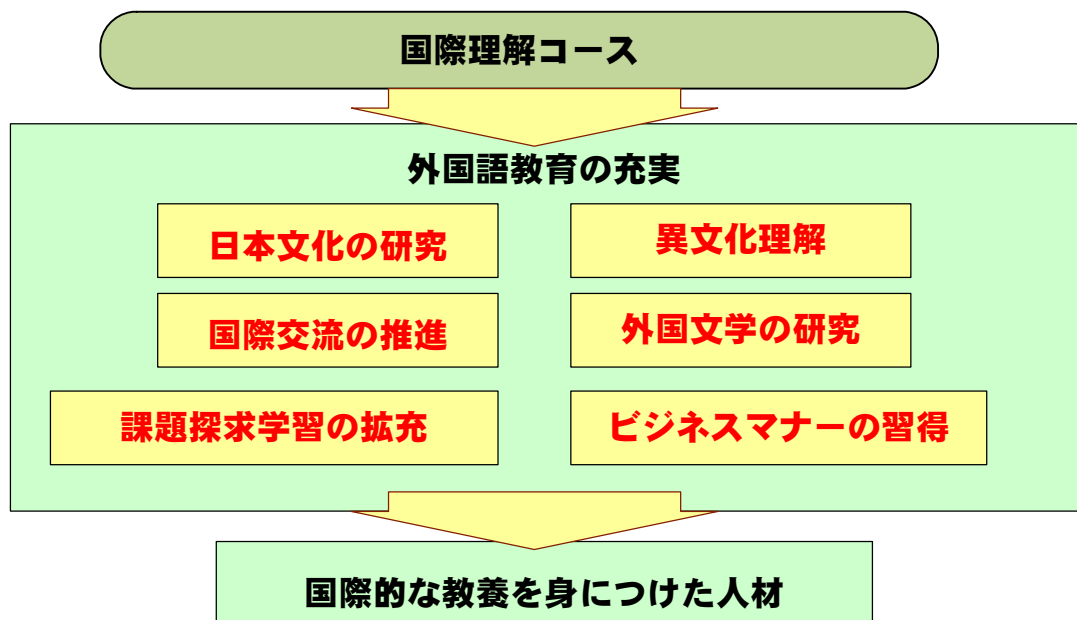
- 論理的な思考力の育成をねらいに、小論文やディベートに積極的に取り組む国語
 - 地域にある自然を教材としたフィールドワークを適切に指導計画に位置づけた地理
 - 命の尊さを実感させるため、保育分野に体験学習を設定した家庭科等
- b 平成18年度から平成24年度まで、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業に取り組んだ向陽高校には、SSHの成果の継承とより一層特色ある理数教育を推進するため、新たに『国際科学科』を併設します。【平成27年度開設】

国際科学科のイメージ



- c また、本市の国際理解教育の草分けとして、オーストラリアとの交流活動の実績のある北高校の普通科に、外国語、国際理解を重視した教育課程をもつ、『国際理解コース』を新設します。【平成27年度開設】

国際理解コースのイメージ



* 普通科の中の「コース制」について

原則として20人ずつの少人数で、体験的・実践的な専門科目等を3年間で15単位程度履修するものです。入学者選抜においては、普通科としての一括募集となります。

(ウ) 学習成果の外部への発信

普通科高校の日々の学習成果等の発表の機会として、また、市立高校の取組を保護者や市民の方へ周知することを目的として、以下のような取組をすすめていきます。【平成25年度～】

- 「市立高校英語スピーチコンテスト」の開催
- 科学系部活動等の合同発表会の開催
- 人文・社会科学、自然科学系のコンクールやオリンピックへの参加等

イ 専門学科高校の充実

工業高校2校、商業科高校2校では、現代日本の産業を担うスペシャリストを育成するために、

- 社会人基礎力、技術者倫理観の育成
- インターンシップの拡充
- 高度な資格の取得

をはじめとする、充実したキャリア教育に取り組んでいきます。

(ア) キャリア教育アドバイザーの設置

企業や官公庁と連携した教育活動を推進するために、「キャリア教育推進会議」を新たに設け、そこに民間企業の経験者を『キャリア教育アドバイザー』としてメンバーに加え、専門学科高校に助言をしてもらいます。

【平成25年度配置】

(イ) 工業系高校－専門性の深化

名古屋市立の工業科高校が目指すもの
↓
『ものづくり企業の第一線で活躍できる人材の育成』

- a 工芸高校では、高校3年間の終了後、高度な技術・技能を身につけるために、さらに2年間専門教科を中心に学ぶ『専攻科』を設置します。

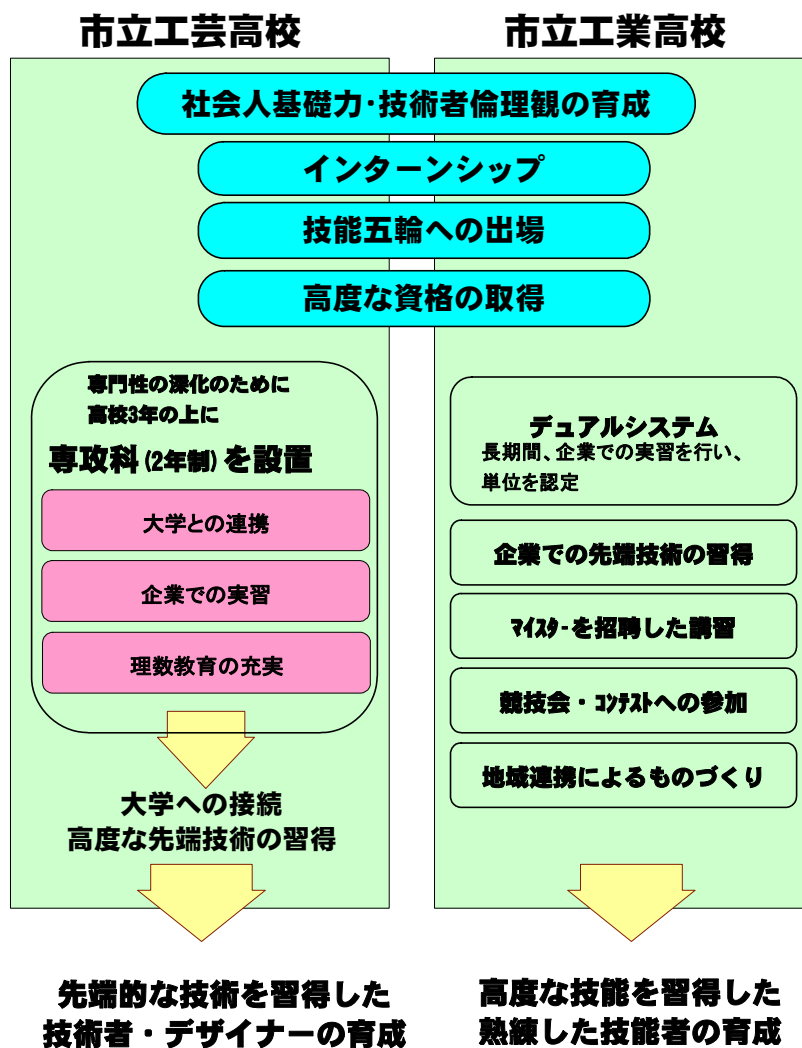
【平成28年度開設】

<特色>

- ・専門教育に偏らず理数教育も重点的に指導
 - ・専門教育の実習の一部を企業や大学との連携により実施
- 希望者の地元大学への3年次編入を可能に（法令の整備が条件）

- b 工業高校では、長期間の企業での実習を実施し、それを単位として認定する『デュアルシステム』の導入を目指します。 【平成26年度～】
- c 企業人による先端技術の指導や熟練技術者による技術指導を行い、さらに専門技能を高めるために各種競技会やコンテストに出場します。 【平成25年度～】

工業科2校のイメージ



(ウ) 商業系高校—専門性の拡充

名古屋市立の商業科高校が目指すもの



『企業の第一線で活躍できる人材の育成』

- a 名古屋商業高校では、国際理解教育の充実を目指して、国際経済科を『グローバルビジネス科』に学科改編します。 【平成29年度改編】
- b 若宮商業高校では、現在取り組んでいる、商業デザインに加えて、商工会議所等との連携も視野に入れ、地域経済の活性化、観光まちづくりを学ぶコースを設置します。 【平成29年度設置】
- c 名古屋商業高校、若宮商業高校の単位互換制度を新設します。 【平成29年度新設】

商業科2校のイメージ



ウ 定時制教育の再編制

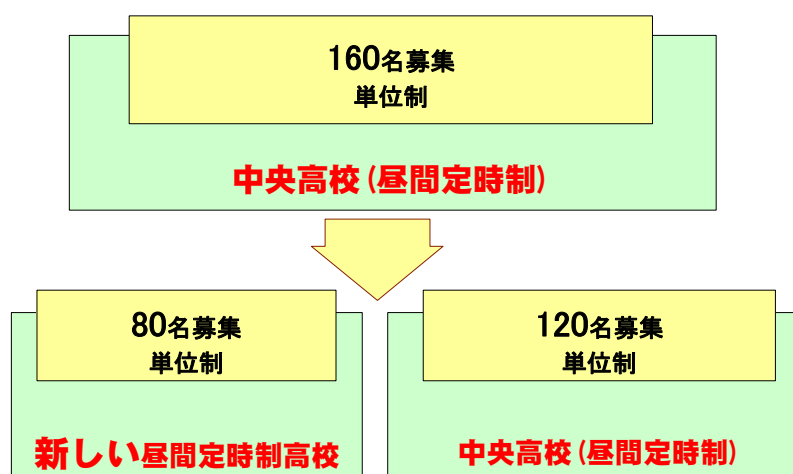
中央高校の昼間定時制課程の定員を160人に増員してから、施設・設備の面で課題が出てきました。また、昼間定時制課程の志願者は例年2倍前後であり、非常にニーズも高いといえます。

そこで、中央高校昼間定時制の定員を40人減じて120人とし、新たに定員を80人とする新しい昼間定時制課程をもつ学校の設置を検討していきます。

【平成25年度～検討】

昼間定時制高校のイメージ

個の特性を生かしながら、自分の道を切り拓くことを目指す定時制高校の構築



エ より魅力ある市立高校づくりに向けて 【平成25年度～】

(ア) 高大連携の拡充

名古屋市立大学等との連携を幅広く、継続的なものにしていきます。これは、生徒の学習意欲の喚起や、将来の進路選択につながる効果が期待できます。例えば、次のような取組が考えられます。

○高校生の大学での学修と高校における単位認定

大学の講義を受講して大学生の単位取得と同程度の成果が認められれば、単位認定をし、高校での取得単位とします。専門教育の実習の一部を大学との連携により実施することも検討します。 【再掲】

○従来型の連携内容の拡充

大学の出張講座を継続的に実施したり、高校教員対象の講座を大学に開設したりします。また、大学生や大学院生に高校の授業や進路ガイダンスなどをサポートしてもらいます。

○大学との接続

法令が整えば、専攻科修了者のうち希望者が、地元大学の3年次編入を可能とするように検討します。 【再掲】

(イ) 野外学習活動の拡充

自然に接する機会が少なくなってきたおり、野外教育活動を充実させていくことは大切です。名古屋市野外学習センターで実施できる野外学習のプログラムを充実させることが望まれます。

そのうえで、現在1年生で実施しているオリエンテーション合宿を2泊3日で実施したり、新たに集団宿泊活動を計画したりしていきます。

(ウ) 積極的な市政貢献、地域貢献

従来から商業高校の商品開発や工業高校が地域の中学生対象に夏期休業中に講座を開催したり、普通科高校でも地域清掃、小学生への読み聞かせ、保育園や老人介護施設へのボランティア活動などが行われています。

今後、市立高校全体で同様の活動を実施したり、名古屋市の各種事業や名古屋で開催されるイベントに市立高校生が積極的にボランティアとして協力するなど、市立高校生の活動を積極的にアピールしていきます。

(エ) 部活動の振興

部活動は、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感を育成し、仲間や教師（顧問）との信頼関係に基づく教育活動として大きな意義があります。

今後は、生徒による自主的・自発的な活動を基本に、学校間の交流、地域との連携等により一層取り組むことで、部活動の活性化を図ります。

(オ) 広報活動の充実

すべての市立高等学校では、各校それぞれのホームページを作成しており、最新の情報を提供できるように、適宜更新をしています。

今後、教育センター情報教育部を中心に、市立高校全体のホームページを作成し、広く市民の方に、市立高校に関する情報をタイムリーに周知できるようにしていきます。

(カ) 中高一貫校の検討

中高一貫校を設置するに当たっては、育てたい生徒像を明確にし、特色ある教育課程をもち、市内全域から通学可能な学校とするべきです。今後、これらを実現できる学校について検討を続け、魅力と特色ある高等学校づくりにつなげていきます。

3 「推進基本計画」のスケジュール

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
外国語教育の充実	各校で 検討・実施	➡	➡	➡	➡
特色ある教科指導	各校で 検討・実施	➡	➡	➡	➡
国際科学科の新設	教育課程・ 施設等検討	施設改修 県教委調整	生徒募集 開設		
国際理解コース新設	教育課程検討	県教委調整	生徒募集 開設		
学習成果の外部 への発信	計画・準備 各校検討	スピーチコンテスト開催 合同発表会開催			
キャリア教育 アドバイザー	キャリア教育 推進会議開催	➡	➡	➡	➡
専攻科の新設	教育課程検討		施設改修	生徒募集 開設	
デュアルシステム	提携先開拓	試行実施	本格実施		
グローバルビジネス科 地域、観光 を学ぶコース 単位互換	教育課程検討 システム検討	➡	➡	募集説明会 県教委調整 試行実施	生徒募集 本格実施
定時制の再編成	設置検討 教育課程検討	➡	➡	➡	➡
高大連携 野外学習 市政貢献 部活動 広報活動 中高一貫	連携協定締結 各校検討実施 各校検討実施 各校検討実施 市立高HP開設 設置形態検討	専攻科の大学 への接続検討 ➡	大学接続決定 ➡	➡	➡

1 魅力ある高等学校づくり推進研究協議会

(1) 役割

生徒、保護者にとってより魅力があり特色がある市立高等学校を目指して、各分野の有識者から幅広く意見を聴き、研究協議し、その結果を教育委員会に報告する。

(2) 委員名簿

区分	氏名	所属等
学識 経験者	額 纈 満	日本ガイシ株式会社 顧問
	花 岡 萬 之	学事出版株式会社 副社長
	武 田 一 哉	名古屋大学 情報科学研究科教授
	有 賀 克 明	名古屋市立大学 人間文化研究科教授
	牛 田 千 鶴	南山大学 外国語学部教授
	伊 藤 典 毅	元名古屋市立高等学校長会長
P T A 関係者	服 部 今日子	名古屋市立小中学校 P T A 協議会副会長
	後 藤 美岐子	名古屋市立高等学校 P T A 協議会副会長
学校 関係者	本 田 修 三	名古屋市立前津中学校長
	楳 木 茂 賀	名古屋市立向陽高等学校長
	鈴 木 靖 之	名古屋市立名東高等学校長
	乙 部 昌 克	名古屋市立山田中学校教諭
	小 島 俊 樹	名古屋市立工芸高等学校教諭
教育委員会	西 淵 茂 男	名古屋市教育委員会学校教育部長

(3) 推進協議会の実施状況

実施時期	事 項
平成23年 7月25日	第1回魅力ある高等学校づくり推進研究協議会 ○高等学校教育改革の全国の状況 ○市立高等学校の現状
平成23年 8月31日	第2回魅力ある高等学校づくり推進研究協議会 ○今後の高校教育の在り方 ○キャリア教育
平成23年11月 2日	第3回魅力ある高等学校づくり推進研究協議会 ○特別活動 ○魅力ある学科・コース 中高一貫教育校
平成23年12月20日	第4回魅力ある高等学校づくり推進研究協議会 ○中高一貫教育校
平成24年 2月 1日	第5回魅力ある高等学校づくり推進研究協議会 ○野外教育活動
平成24年 3月 7日	第6回魅力ある高等学校づくり推進研究協議会 ○推進研究協議会まとめ

*平成24年1月20日、2月24日に専門部会を開催し、野外教育活動について協議

(4) まとめ

ア 高校教育改革の研究協議を進めるにあたっての基本的な考え方について

- 市立高校としての教育目標を明確にし、各学校がどのような生徒の育成を目指し、生徒にどのような力をつけさせるかを再検討
- 一つの学校の改革の検討にとどまるのではなく、市立高校全体としての改革を検討

イ キャリア教育（高大連携・企業との連携）

- 高校生活3年間およびその先を見通したキャリア教育の検討
- 高大7年間を見通した専門教育を考える高大連携の検討
- インターンシップを重要視
- 商業科・工業科などにおいては、技術の習得向上などでの企業との連携を検討

ウ 特別活動（学校行事・生徒会活動・HR活動・部活動）

- 市立高校全校が力を合わせて一つのものをつくりあげるという行事の実施
- 生徒の団結やチャレンジ精神の育成を目指した施策の展開

エ 魅力ある学科・コース

- 普通科高校への理数系の学科や語学（英語）教育を重視した学科等の新設の検討
- 専門高校においては、専攻科や高大連携入試制度などについて検討
- 進路変更に対し柔軟に対応できるような仕組みの検討

オ 中高一貫教育（中高連携）

- 中学校と高校との連携をすすめていく事は大切
- 中高一貫校で目指す生徒像、教育目標の検討
- 限られた生徒のみが対象になる学校を設置していくことの必要性
- 検討にあたっては、生徒・保護者や市民のニーズ調査等を行うことが重要

カ 定時制

- 昼間定時制のニーズは極めて高く、募集定員の拡大がのぞまれるが、施設や教員配置などのハードの面での課題
- 新しい昼間定時制の設置を検討

キ 野外教育活動

- 野外学習センターは、オリエンテーション合宿を実施する施設としては良いが、高校生の野外教育活動施設としては、もう少し冒険的・挑戦的なプログラムができる施設が望ましい。
- オリエンテーションとは別に野外教育活動としての行事の検討
- スポーツ施設は部活動以外の利用も含め再検討

2 教育シンポジウム

(1) 日時

平成24年8月22日（水）

(2) 場所

名古屋市教育センター 講堂

(3) 内容

- ア 市立高校の魅力や特色の紹介
- イ 市立高校出身者によるトークショー
- ウ 参加者からの意見聴取

(4) 寄せられた市民の意見（要旨）

- 学校にはいろいろな教員がいて、いろいろな生徒がいられるような器の大きい市立高校でありたい。
- 市立高校14校の交流やつながりを大事にしたい。
- 名東高校では海外派遣や海外への修学旅行を行っている。こうした試みを、市立高校全体に広げていただきたい。
- 今の市立高校には、以前にはなかったような取組がたくさんある。このような情報を、中学生の保護者へうまく伝わる仕組みを作ってほしい。
- ファッション文化科では、6月にファッションショーを行っている。もっとたくさんの人たちに観てもらいたい。このファッションショーは子どもたちにとって、今後の人生においてかけがえのないものであるので、今後も支援をしてほしい。
- 普通科と専門学科がある高校がよい。また、市立高校のことを知らない人が多いので、もっとPRしてほしい。
- 県外から引っ越してきたが、子どもは喜んで通っている。先生たちが一生懸命にやってくれる。これぞまさしく人の魅力である。教育委員の方々には、ぜひ学校現場を見てほしい。
- 工芸高校はものづくりの全国大会に出場している。7つの学科がいずれも全国大会を目指していて、先生たちは一生懸命指導しているので、予算をお願いしたい。
- 子どもたちの部活動を応援したいので、予算をお願いしたい。

- SSクラスで学び、課題研究や企業訪問などの活動を通して、現在の社会における課題や問題を理解することができた。このような取組を続けていきたい。
- 中央高校昼間定時制には、不登校の生徒なども受け入れてくれるなど、とてもいい学校である。非常にニーズが高いため、今後も昼間定時制の学校に対しての取組を進めてほしい。
- 先輩がどのような仕事をしているか、どのような活躍をしているかといったことを知ることが大事である。また、高校にも、大学のような知識を深めるためのゼミのような活動があるとよい。さらに、各校の交流も大切である。
- 市立高校では、専門的な教育をやっていると感じた。市立高校で教育を受けている生徒たちは、早いうちから自分の夢や力を実感しながらやっていると感じた。若いうちから自分のやりたいことを見つけるような教育が必要であると思う。市立高校はそのような取組をしていると思う。今後も続けてほしい。
- 中学生にとって「高校の魅力」とは、勉強面よりも行事だと思う。行事を盛り上げるサポートをしてもらいたい。
- 命の大切さを学ぶ機会を増やすべきだと思います。
- 名古屋市以外にも高校の特色を発信してほしい。
- 子どもたちに、本物の芸術に触れる機会を与えてほしい。
- 各学校で特化できる特色を認めて伸ばすべき。
- 子供自身がのびやかに考えていける環境が大切ではないかと思う。
- 市立高校の関係者だけでなく、中学校の関係者や中学生の意見も聞いた方がよいと思う。
- 市立・県立の違いなど、子供達にもわかりやすく、学校を通して知らせるようなシステムは出来ないか。

魅力ある高等学校づくり改革案

高校名	学科・24募集学級数	生徒数	教育課程上の特徴	特色ある取組	各学校の目指す特色づくり	具体策
菊里	音楽 1 普通 8	114 962		定期演奏会、卒業演奏会	○自学自習の姿勢の育成と、学力向上を目指した普通科教育 ○一流の芸術家を育てる音楽教育	音楽科ミニコンサート(H25)
向陽	普通 9	1086	65分5限授業 33単位	スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)	○世界で活躍する科学技術系人材を育てる理数教育	理数教育推進校(現在) → 国際科学科設置(H27)
桜台	普通 8 フアッション文化1	1000 120	46分7限授業 32単位	フアッションショー	○実験・実習による体験活動を重視する先進的な理科教育 ○世界を舞台に活躍するクリエイターを育てるフアッション文化教育	コース制(H25) (クリエイティブ・デザインメイア)
北	普通 8	955			○国際的な教養を身につけさせる国際理解教育	国際理解コース設置(H27)
緑	普通 9	994	55分6限授業 33単位		○論理的思考力を育成し、感性を育てる国語教育	
富田	普通 8	951	46分7限授業 32単位	習熟度別授業(英・数)	○異校種との交流を通して豊かな心を育む普通科教育	
山田	普通 7	789	・類型制 ・多様な選択科目 ・少人数授業	朝の読書、AED実習	○命の尊さを実感させる健康・安全教育 ○地域に根差した環境教育	
名東	普通 8 国際英語 1	1000 118		海外修学旅行、語学研修、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHI)	○高度なコミュニケーション能力を育成する語学教育 ○国際的視野を広げる国際理解教育	姉妹校提携締結(H26) 交換交流活動(H28)
西陵	総合 5	599	【6系列】 アカデミー・健康スポーツ・介護福祉・国際ビジネス・ビジネスマネジメント・情報メディア		○高齢化社会で活躍できる人材を育てる介護福祉教育	福祉特例高校指定(現在)→卒業と同時に介護福祉士
名古屋商業	商業 5 情報処理 2 国際経済 1	951	【コース】(商業) 会計・流通経済・OAビジネス	姉妹校提携、TV会議合同授業	○国際ビジネス社会で活躍できる人材を育てる商業教育	海外修学旅行(H27) 学科改編(H29)(国際分野重点化)
若宮商業	総合ビジネス 3 情報ビジネス 2 会計ビジネス 1	692	【コース】(総合) ビジネス・インテリジェントデザイン・環境ビジネス	SPP(環境学習)	○商業デザインや地域経済の活性化、観光まちづくりを中心とした商業教育	地域、観光を学ぶコースの設置(H29)
工業	機械 1 電子機械 1 自動車 1 電気 1 情報技術 1 環境技術 1	731	総合選択制	目指せスペシャリスト(スーパー専門高校): 飛行機制作	○デュアルシステムを導入し熟練した技能者を育成する工業教育	
工芸	電子機械 1 情報 1 建築システム 1 都市システム 1 インテリアデザイン 1 グラフィック 1	829	類型選択による大幅な選択制		○専攻科を設け先端的な技術を習得した技術者を育成する工業教育	専攻科設置(H28) 大学3年次編入のシステムづくり
【定時制】						
中央	夜間:普通 2 商業 1 昼間:普通 4	夜 173 商 82 昼 544	3年卒業対応の教育課程	少人数指導 単位制(無学年制) 自由選択制	○個の特性を生かしながら、自分の道を切り拓くことを目指す定時制教育	昼間定時制の拡充
工業	夜間:工業技術 1	115		基礎学力指導		

カリキュラムの強化(オールイングリッシュ授業の拡大など) 野外教育活動の拡充 (H25)

マイスター(外部講師)の活用(H25)

デュアルシステム・長期のインターシップの導入(H26)

キャリア教育アドバイザー設置(H25)

単位互換制度(H29)

積極的な市政貢献・地域貢献 (H25)

科学的コンテスト等への参加 TOEIC等の受験 語学研修、海外修学旅行の拡充(H25)

資格取得

就業体験

高大連携

地域との連携

地域連携

名市大連携

名市大連携

高大連携

科学館連携
電気自動車

名古屋市教育委員会事務局学校教育部指導室（市役所東庁舎6階）

電話番号 052-972-3234

ファクシミリ番号 052-972-4177